

元受刑者らの就労支援語る

「千房」会長 中井さん講演に120人

華厳寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が21日、奈良市の華厳寺で開かれた。県出身で、お好み焼きチェーン「千房」（大阪市浪速区）会長の中井政嗣さんの講演に約120人が聴き入った。

中井さんは、開業を目指して貯金するために、5年間つけ続けた出納帳を紹介。路上で拾った小銭の金額まで細かく記録された出納帳を見た信用組合の理事が、千房の開業資金として3000万円を無担保で融資したと明かし、「記録し続けることで大きな信用に

つながった」と振り返った。開業後は人手が足りず、学歴や経歴を問わずスタッフを入れる元受刑者らの就労支援について、「反省は1人でもできるが、更生は1人ではできない」と取り組みの重要性を訴えた。

次回のまほろば塾は10月19日に開かれ、大阪市立美術館館長の内藤栄さんが講演する。

◆読売新聞オンライン



読者会員登録で大阪本社版朝刊の各地域版がカラーでご覧いただけます

令和7年9月22日（月） 読売新聞 朝刊・地域面奈良



「元受刑者の採用を続け、社会の偏見をなくしたい」と語る中井さん（奈良市で）